

ローマ条約調印50周年を記念する

1957年3月25日に調印されたローマ条約によって、欧州は家族にも例えられる連合体への道を歩み出した。50年後の今日、その家族はかつてないほど固いきずなで結ばれつつある。文化、言語、伝統の多様性を保つ一方、欧州は自由、民主主義、法の支配、人権の尊重、平等という共通の価値の上に結束を固めている。平和と安定、自由と民主主義、繁栄、雇用と成長——50年間にEUが成し遂げた成果は大きく、50周年を機に祝うことは多い。



ベルリン宣言に署名をするベテリク欧州議会議長、メルケル独首相、パローゾ欧州委員会委員長（前列左から）（3月25日、ベルリン）



多くの市民が参加してにぎやかに祝典が行われた（3月26日、ベルリン）



ブランデンブルグ門を彩る花火で「ローマ条約調印50周年」を華やかに祝う（3月26日、ベルリン）

※ P.10の写真はすべて©European Community, 2007

「ベルリン宣言」採択

3月25日、欧州連合（EU）は欧州統合の出発点となったローマ条約¹調印50周年を迎えた。これを記念して、EU首脳はベルリンで非公式首脳会議を開催し、過去50年の統合の軌跡を振り返るとともに、今後EUが目指す統合の方向性を示した「ベルリン宣言」を全会一致で採択した。

「ベルリン宣言」は、50年に及ぶ統合が欧州に平和と繁栄をもたらし、加盟国が民主主義と法の支配を揺るぎないものにするに寄与したことをたたえた。具体的な成果として、欧州大陸の人為的な分断を解消した中・東欧諸国のEU加盟、単一市場の創設や単一通貨ユーロの導入に言及された。また、各加盟国のアイデンティティや文化、言語、地域の多様性を維持することでEUそのものが強く豊かになるとうたい、「多様性の中の統合」を推し進めることを再確認した。

パローゾ欧州委員会委員長は非公式

首脳会議の演説の中、これを補足する形で次のように述べている。「私が持つ欧州のビジョンは、EUが統合を促進し、加盟国が多様性を擁護するという枠に収まるものでない。真のパートナーシップとは、EUが多様性を尊重し、加盟国が統合を推進する場所に宿る。ゆえに、共同体メソッドと補完性の原則が必要とされるのである」。

直面するグローバルな課題に立ち向かうにはEUがひとつになって行動することが重要である。宣言は、EUが一丸となって取り組む課題として、テロや組織犯罪の撲滅、不法移民対策を挙げたほか、エネルギー政策や地球温暖化対策では国際社会を主導する決意を明記した。

最後に宣言は、時勢に対応して政治形態を見直す必要性に触れ、今後の統合の方向性について、2009年6月の欧州議会選挙前に「新たな共通の基礎」を築く目標を明らかにした。「新たな共通の基礎」とは、2005年にフランスとオランダが国民投票で批准を拒んだ欧州憲法制

定条約を指す。この目標によって、両国の批准拒否以来凍結状態にあった同条約について、具体的な発効期限を設けて再始動の一步を踏み出したことになる。

6月末までEU議長国を務めるドイツのメルケル首相は、同日行った演説の中で、「強固な制度を持つことによってのみ、欧州はダイナミックでいられ、力強い成長を遂げられる」ことを強調した。EUが効率的に機能し、直面する問題に効果的に対応する体制を早期に整えねばならない大きな理由は、そうした問題の多くが近年複雑化の度合いを深め、EUが一体となって行動すべき機会が増えているからである。メルケル首相は、憲法条約発効に向けた行程表を議長国任期中に提出する方針である。

¹ 欧州経済共同体（EEC）設立条約および欧州原子力共同体（Euratom）設立条約の総称

欧州全土で祝典

3月24日と25日の両日、200人を超える欧州の若者の代表がローマに集い



EUの50年に際し、東京でも式典が行われた。写真は記念のケーキにナイフを入れる主賓の安倍総理と見守るデア・ドイツ大使(左)およびリチャードソン欧州委員会代表部大使(右より2人目)(3月25日、東京・六本木ヒルズ東京シティビュー)

©trainspot.jp



都内のホテルでは、50周年を祝うパースデーケーキがふるまわれた(3月25日、ウェスティンホテル東京)

ローマ条約署名50周年を記念する 安倍晋三総理大臣からのメッセージ



今日の欧州連合の基礎となったローマ条約の署名50周年にあたり、日本政府を代表して、心からのお祝いを申し上げます。

今から50年前、ローマ条約に署名した6カ国に始まった欧州経済共同体は、今年ブルガリアとルーマニアを新規加盟国に迎え、27カ国からなる欧州連合へと大きく発展しました。また、「ユーロ」も、今年スロヴェニアを加えて、13カ国の共通通貨となり、国際市場での存在感を一層強めています。

この記念すべき年の始め、私は、英国、ドイツ、ベルギー、フランスを訪問し、ベルギーではEUとNATOの本部も訪れました。今回の訪問の目的は、自由、民主主義、基本的人権、法の支配といった基本的価値を共有する我が国と、欧州諸国がグローバルな課題の解決に向けて、協力して行動する戦略的パートナーシップを強化することでした。私は、この目的は完全に果たされたと考えています。

日欧間では、1991年の「日・EC共同宣言」発表以降、2001年の「日・EU協力のための行動計画」、2005年の「日・EU市民交流年」など、双方が関係の強化に努めるとともに、政治、経済、文化、市民交流などの幅広い分野で協力を進めてきました。このように、日欧関係は、まさにEUとともに拡大・深化を遂げてきたこととなります。日本と欧州は、これまで築き上げてきた信頼と絆という貴重な財産に基づき、世界の平和と繁栄に向けた協力をさらに強めていくべき運命にあります。

私は、ローマ条約の署名から50周年を経て、EUおよび欧州諸国が、世界の平和と繁栄の担い手として、今後、ますますその重要性を増大させることを確信しています。

「あなたの欧州、あなたの未来」という標語の下、EUの将来について話し合う「EU青年サミット」が開かれた。「EU条約の将来」、「EUの社会・経済モデル」、「持続可能な発展」、「グローバル化の進む世界におけるEUの役割」、「民主主義と市民社会」、「青少年と教育」という6つのテーマを討議するこの青年サミットは、EUの将来のあり方に関する進行中の議論に若者や青少年団体の参加を促すことを目的に、今年1月から準備が始まっていた。サミットの総括は25日、EUの首脳に手渡された。

記念日に先立つ3月13日には、英国で2つの「50周年」を記念するサッカーの親善試合が行われた。戦ったのは、ローマ条約調印50周年を迎える欧州のオールスター選抜チームと欧州カップ戦参加50周年を祝うマンチェスター・ユナイテッドFC(マンU)。ベッカム、ルーニー、C.ロナウドなどの超人気選手が揃って出場するとあって、試合会場となったイングランドのオールド・トラフォードには、親善試合としては過去最高の7万4,000人を超える観客が集まった。ベッカム選手は、あいにく怪我で出場できなかったものの、同選手の古巣に集まったファンに対しハーフタイムに



50周年記念親善サッカー大会でマンUの選手を激励するパローゾ委員長(3月13日、英国イングランド・オールド・トラフォード) ©European Community, 2007

スーツ姿で挨拶をした。試合結果は4対3でマンUが欧州選抜チームを下した。試合の収益金は慈善事業に寄付される。

ベルギーのブリュッセルでは3月24日に、同国王夫妻、同首相、パローゾ委員長の出席の下、50周年記念コンサートが催され、欧州歌であるベートーベン作曲第九交響曲が演奏された。また、スペインのバルセロナではランドマークのアクバル・タワーが50周年を祝うイルミネーションに飾られるなど、EU50周年を迎えるにあたり欧州全土でさまざまな記念イベントが行われた。

日本でも50周年を祝う

EU加盟国駐日大使と駐日欧州委員会代表部は、3月25日に安倍総理を主賓とするローマ条約記念レセプションを開いた。議長国ドイツが中心となって行われた同レセプションには、ビジネス界をはじめ、政界・スポーツ界などから1,000人を超えるゲストが集い、会場となった六本木ヒルズ東京シティビューの眼下360度に広がる東京の夜景に感動しつつ、EUの50年を祝った。

また、都内の14のホテルに50周年を祝うパースデーケーキが用意され、レセプションに先立つ午後3時を期して一斉に加盟国の各大使によるケーキカットが行われた。

さらに50周年記念イベントとしては5月9日のヨーロッパ・デーに都内近郊の中学・高校70校近くで加盟国大使・外交官による「EUがあなたの学校にやってくる」と題した出張授業が行われる。

